



みる問題などの出題が出されました。

B問題では、図表を用いた説明文について、文章とグラフの関係を考えながら内容を読み取ることができるかどうかをみる問題や、ロボットについての資料を作成して発表する場面に関する問題、文学的な文章について、物語のあらすじを書く問題など出されました。

## ○中学数学について

A問題では、正負の数の計算や、文字式の計算とその利用、方程式、平面図形や空間図形、図形の性質と証明、関数、資料、確率などの中学2年生までに学習する単元について、過去のテストで正答率が低く、課題となっている問題から多く出されました。

B問題では、3つの計算の順番にしたがって求めた数について考察する場面で、予想したことが成り立つかどうかを確かめたり、文字式で説明したりする力を問う問題や、四角形の対角線について、平行四辺形の証明を振り返ることで、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題などが出されました。

また、放送委員の取り組みについて、アンケートやくじ引きの結果をもとに、昼に放送する曲の決め方を数学的に解釈したり説明したりすることができるかどうかをみる問題や、列車の写真撮影する計画を立てる場面において、ダイヤグラムなどから必要な情報を読み取ったり、問題解決の方法を数学的に説明したりする問題、バスツアーでの旅行の料金についての問題など、日常的な場面において、数学的に解釈したり、問題解決に数学を利用したりする問題が多く出されました。

## ○中学理科について

光の反射を利用する「テレプロンプター」のモデルを作る場面において、光の性質についての知識や技能を活用することができるかどうかをみる問題など、生徒が理科の問題として見慣れないテーマをもとに、理科の知識や技能を活用できるかどうかをみる問題が出題されました。

また、アサリが出す砂の量が何に関係しているのかを、実験を通して科学的に探究する問題や、台風の進路や風向を、コンピュータを使ったシミュレーションで科学的に探究する問題、ファラデーの著書である「ロウソクの科学」を読んで書かれたレポートについての問題、刺激と反応の知識を用いて、運転中の運転士に話しかけてはいけない理由を科学的に探究する問題など、日常的な場面から、科学的な課題を設定したり、実験を計画・構想したりする問題が多く出されました。

(文/学林舎編集部)

2018年教育の行き先

## 学習指導要領改訂によって 教科書どう変わる？

—英語・国語編

新学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱の目標が掲げられています。これらの目標のもとに改訂された、外国語[外国語活動・英語]と国語の新しい指導要領について、具体的な内容を整理します。

### 【英語】

#### (1) 小学校 外国語活動・外国語[英語]

学習指導要領の改訂に伴い、これまで小学校5、6年生で行われてきた外国語活動が小学校3年生から開始されます。2020年度から全面的に小学校3、4年生での外国語活動がスタートし、小学校5、6年生で英語が科目として新設されます。新学習指導要領に定められた小学校英語の目標を紹介し、小学校3、4年生での外国語活動が現行のものからどのように変わるのか、また、小学校5、6年生で教科化されることによって何が変わるのかを解説します。

#### 1. 目標

現行の学習指導要領では、外国語活動の目標は「(省略) コミュニケーション能力の素地を養う」と簡潔に記されていましたが、**改訂後は5領域(聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと)のそれぞれに具体的な到達目標を設定**しています。(小学校3、4年生は「聞くこと」、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]の3領域。)例えば、外国語[英語]の「聞くこと」では、「簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする」、「具体的な情報を聞き取ることができるようにする」、「短い話の概要を捉えることができるようにする」とあり、より実践的なコミュニケーションの場を想定した、基礎的な技能を身に付けることが目標になっていることがうかがえます。

#### 2. 内容

##### ① 小学校3、4年生 外国語活動

新学習指導要領の目標の3つの柱のうち「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の2つに分けて示されています。「思考力、判断力、表現力等」では、さらに

「言語活動に関する事項」と「言語の働きに関する事項」に分けて、具体的な内容があげられており、特徴的なものとして、下記のような項目があります。

#### ・言語活動に関する事項

##### 聞くこと

- (ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かたりする活動。
- (イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。
- (ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。

(中略)

##### 話すこと[発表]

- (ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。
- (イ) 自分の好き嫌いや欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。
- (ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

また、「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、ペア・ワークやグループ・ワークなどの学習形態についての工夫も求められています。

## ②小学校5、6年生 外国語[英語]

取り扱うべき内容の「知識及び技能」において、これまでの外国語活動の指導要領にはなかった言語材料という言葉を使って具体的に明示されています。言語材料は中学校の指導要領で使用されてきた用語ですが、今回、小学校にも具体的な文法事項が記載されました。現行の中学校の指導要領から一部、内容が移行したことによるものです。

移行内容には、下記のようなものがあります。(一部を抜粋)

### 1. 文

- ・単文
- ・肯定、否定の平叙文
- ・肯定、否定の命令文

- ・疑問文のうち、be 動詞で始まるものや助動詞(can, do など)で始まるもの、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの
- ・代名詞のうち、I, you, he, she などの基本的なものを含むもの
- ・動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの

### 2. 文構造

- ・[主語+動詞]
- ・[主語+動詞+補語]のうち、

主語+be 動詞+  $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$

- ・[主語+動詞+目的語]のうち、

主語+動詞+  $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$

これらの言語材料は、これまでの中学校と同じように扱うのではなく、「文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」という条件が示されています。

## (2)中学校 外国語[英語]

### 1. 目標

中学校でも、小学校と同じように5領域(聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと)のそれぞれに具体的な到達目標を設定しています。小学校での英語、とくに聞くこと、読むことを中心とした学習をふまえ、日常的なことや関心のあることを中心に、「できるようになること」があげられています。(一部を抜粋)

#### 聞くこと

- (ア) はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
- (イ) はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

## 2. 内容

新学習指導要領の目標の3つの柱のうち、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の2つに分けて示されています。中学校の内容が小学校5、6年に移行したことに合わせて、「知識及び技能」の言語材料に変更がみられます。新たに追加されたものは次の通りです。

・ 感嘆文のうち基本的なもの

・ 主語＋動詞＋間接目的語＋  

}	that で始まる節
	what など始まる節

・ 主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞

・ 主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節

・ 現在完了進行形

・ 仮定法のうち基本的なもの

また、中学校3年間で扱う語数を1600～1800語程度とし、小学校で学習した600～700語と合わせると、約2500語を中学修了までに学習することになります。これは現行の1200語からの大幅な増加になります。

なお、「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること」とあり、小学校との接続にも留意されています。

## 【国語】

次に小学校、中学校の国語における目標と内容を整理します。

### 1. 目標

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱の下に、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目指しています。「言葉による見方・考え方」とは、「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる」と定義し、「内容」に今回追加された「情報の扱い方」に関する事項はこの目標に対応したものとと言えます。

### 2. 内容

目標の3つの柱のうちの2つ「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に分けて、内容が示されています。

#### ・ 知識及び技能

言葉の特徴や使い方に関する事項

情報の扱い方に関する事項

我が国の言語文化に関する事項

#### ・ 思考力、判断力、表現力等

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと

なお、漢字25字が小学校4年生に移り、都道府県名で使う漢字すべてを小学校4年生までに習うことになりました。

また、今回追加された「情報の扱い方」については、小学校、中学校で次のように示されています。

#### ・ 小学校

話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

#### ・ 中学校

ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

これらの指導にあたっては、ICTの活用などで指導の効果を高めるように示されています。

改訂によって内容に大きな変更はありませんが、「言葉による見方・考え方」をふまえた授業の充実化が期待されます。

(文／学林舎編集部)

# クロスロード Crossroad

第 81 回 文 / 吉田 良治

## 新社会人の睡眠障害

近年若者を中心に睡眠に関する障害が増えています。医学的には睡眠不足症候群と呼ばれるもので、最も顕著なのが大学を卒業した新社会人でその傾向が強まっています。

大学は高校までと違い毎日決まった時間に大学へ登校することはありません。高校までは一般的に毎朝 8 時 40 分ごろには授業が始まりますので、その時間には席について授業を受ける体制ができています。しかし、大学では学生ごとに履修する科目が異なり、大学へ登校する曜日、時間帯は一定とはなりません。一時間目に履修している授業がない場合、当然その時間帯に登校する必要はありません。大学は 90 分授業ですので、朝 9 時が一時間目なら二時間目は通常 10 時 40 分開始（休憩時間 10 分を含む）となります。一時間目に履修する授業がなければ、1 時間 30 分遅く登校になるため、ほかのことにその時間を割り当てることができるのですが、その時間を睡眠に充てる学生も少なくありません。逆算すると朝起きる時間が遅くなれば、当然就寝時間も遅くできます。それが所謂夜型生活を送る温床となっていきます。学生時代に夜型生活の習慣が身についても、履修している授業に出席し、単位が取得できていけば支障がありませんが、新社会人となり企業に就職すると、毎日始業時間に合わせて出勤し、仕事をするようになりますので、社会人として生活習慣を合わせなければなりません。しかし、4 年間続けてきた夜型の生活習慣が、新社会人となった 4 月からすぐ昼型に適応することはできません。入社した当初は緊張感で乗り切ることができても、GW 明けから梅雨の時期にかけて、昼間の眠気に襲われる新社会人が、医療機関に駆け込んでくるケースが急増しています。

高校までは登校する時間は一定していましたが、睡眠時間が十分確保できていたかという点、そうともいえないようです。文科省の調査では小学生で午後 11 時までには就寝する割合は 85.4%ですが、中学 1 年生になると 59.8%に減少、受験勉強の追い込みとなる中学 3 年生となると 22.6%に激減します。高校生になると 16.4%まで下がってしまいます。毎日同じように高校へ登校する高校生ではほぼ完全な夜型生活が定着しています。朝起きる時間が一定でも、夜寝る時間が遅くなれば、当然睡眠不足となっていきます。その睡眠不足の蓄積が近年深刻になっています。所謂“睡眠負債”といわれるものです。この睡眠負債は休日に寝だめをすることで解消はできませんので、毎日規則正しく、十分な睡眠時間を確保することが必要となります。睡眠負債状態に加え、毎日必ず一時間目から登校する必要がなくなる大学生になると、朝早く起きる必要がなくなり起床時間が遅くなるので、朝定時に仕事をする社会人生活に適応できなくなっているのは必然といえます。近年はスマートフォンの使用など、深夜遅くまで起きる機会が増えているので、夜型生活をいかに改善するか、自己コントロールが大きなカギとなります。

睡眠不足は単なる仕事や就学など、通常の社会活動に支障をきたすだけでなく、生活習慣病をはじめ精神疾患を招く健康問題にも発展していきますので、日ごろから十分な睡眠がとれるよう、日々のタイムマネジメントを整えることが重要となります。(つづく)

### 吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog

<http://ameblo.jp/outside-the-box/>